

大好き! 幾春別川

DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

(1)2006(平成18年)3月26日(日曜日)

VOL. 13

●無料誌 ●年4回発行 ●部数:4.5万部 ●配布エリア:岩見沢市・三笠市・美瑛市・北村

発行元:幾春別川ニュース編集委員会
編集委員長 嵯峨 義輝

〒068-0007
岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部岩見沢河川事務所内編集委員会事務局
TEL:0126-23-9555 FAX:0126-25-1697

幾春別川

新水路通水記念シンポジウム開催

地域の新たな

発展に向けて



平成18年2月10日(金)、北村農村環境改善センターにおいて「幾春別川新水路通水記念シンポジウム」が開催されました。

石狩川開発建設部の神保部長、北村の村上村長、岩見沢市の渡辺市長の順で挨拶があり、「忘れな草 啄木の女性たち」をテーマにした山下多恵子さんによる講演が行われた後、山上コー

ダイネーター、大原さんからは、「当初、地権者の方は協力が反対かの葛藤がありました。話し合いの場を何度も持つことにより、最終的には団結することが出来ました。」とのお話がありました。

総括としては、その地域の暮らしを楽しむことがまちづくりの基本であり、水を通して風景を見ることや、「無いくつもの豊かさ」の中でどう生きるか、また、今の農業は私たちがただのためにあるのではなく、将来の日本、北村の農業を長いスタンスで考えること、今後の町づくりの原点となることとまとめられ、閉会となりました。



ほかに4名のパネリストによるパネルディスカッションが開かれました。パネルディ

スカッションでは、パネリストの自己紹介の後、村上村長からは、「昭和56年の大洪水から、その後、その後の治水事業により25年間大きな水



参加者からも活発な意見が出されました!

講演会

「忘れな草 啄木の女性たち ~橘智恵子を中心に~」

より

石川啄木が、函館の小学校で代用教員をしていたときに出会った同僚の橘智恵子の立ち振る舞いを、啄木の「ローマ字日記」では、「鹿ノ子百合」にたとえられていきます。うつむくように咲く花の姿から、謙虚な雰囲気を感じていた女性だと思われること。また、啄木の作品「握の砂」において智恵子が破格の扱われ方をしていることから、理想の女性であったのではないかなど、山下さんが想う啄木の人生と文学における智恵子の存在について話されました。



山下 多恵子さん
長岡工業高等専門学校非常勤講師
日本近代文学会会員
国際啄木学会会員

石狩の空知郡の 牧場のお嫁さんより 送り来しバタかな。

橘智恵子が、後に嫁ぎ先の北村の牧場より送ったバタを啄木が受け取った時に詠んだ短歌です。

※北村牧場の一角には、啄木直筆の歌碑が建てられています。

■パネリストのみなさま



宝沢 康晴さん
㈱コミュニティFM
はまなす取締役部



渡邊 康玄さん
独立行政法人北海道
開発土木研究所
河川研究室長



大原 弘一さん
北村議会議長



村上 宗範さん
北村長



山上 重吉さん
専修大学北海道短期
大学環境システム
科教授

■開会のごあいさつをいただきました



渡辺 孝一さん
岩見沢市長



神保 正義さん
石狩川開発建設部長

連載⑧ 流域の野鳥 春



コゲラの珍事 (エゾコゲラ)

例年になく、シバの強い日が続いた土曜日。幾春別川河畔林を、スキーで歩いてみた。

静かだ。遠くに電車の音が聞こえるだけで、夕張岳、樽前山が見える贅沢な朝だ。静かに、立ち枯れたイタドリの中を歩いてみるとコゲラを見つけた。スズメくらいのおおきさで、キツツキの仲間では一番小さい。イタドリを盛んに突いて、中にいる虫を食おうとしているが、細長いイタドリが突くとびに大きく揺れるので、なかなかうまくいかないようだ。エサの少ない冬では大変である。

数年前の一月、雪が少なく暖かい日が続いたとき、近郊の自然休養林を歩いたときのことである。かなり遠くからキツツキが、木を突く音が聞こえる。アカゲラかオオアカゲラかと思いつく。何と、コゲラが力強く木を突いていた。15センチ位と小さい体なのに一番元気のような。これも、冬のエサ探しに厳しいと言ったところだろうか。

一週間ほど経ってから同じ場所に行ってみた。「あれ?巣穴だ!」。コンパステで円を描いたかのように綺麗な丸い巣穴が出来上がっている。「まだ一月なのに?」。双眼鏡で中をのぞいてみると、虫が居た様な気が無いし、少し浅いようである。ひよことして雪が少なく、暖かい日が続いたので春の繁殖期と間違ったのかなと思いつつ、変な行動を見てしまった。

春、例の穴を注意して見てみると、シシユウカラが一生涯命材を運び込んでいるのを見た。「自分のための巣?他の鳥の巣?」を作ったのか定かたではない珍事を見てしまった。

(岩見沢野鳥の会 若林信男)



洪水から流域を守る 幾春別川新水路 「旧美唄川の通水」

平成18年2月2日(木)、北村幌達布の幾春別川新水路で、昨年2月の幾春別川切替式に続き、旧美唄川の通水式が行われました。

【幾春別川新水路事業とは】
「幾春別川新水路事業」は、幾春別川下流域および旧美唄川流域を洪水から守るため、平成3年度から進められています。
幾春別川に旧美唄川を合流させ、石狩川と幾春別川の合流点を下流に約5キロメートル移す一大事業です。
合流点を下流に移すことで、水位が下がり洪水時の水を石狩川に流れ込みやすくして、北村地区の低平地の被害を大幅に軽減するものです。



鋼矢板の撤去

代表者3名によってボタンが押されました



式典には地元関係者や行政、工事関係者など約90名が列席。
北村の村上村長、石狩川開発建設部の七澤次長、幌達布新水路事業対策協議会の池田会長が代表して通水のスイッチを押すと、旧美唄川と新水路を仕切っていた鋼矢板が引き抜かれ、同時に火花が打ち上がり、旧美唄川が新水路(幾春別川)へ流れ始め、参列者から一斉に拍手がわき起こりました。
今後は石狩川に注ぐ旧美唄川の現在の合流点を閉鎖して完了する予定です。

【事業の経緯】

新水路は、石狩川に並行して新たな水路を掘削し、築堤(丘陵堤)、護岸、樋門や道路の付け替えや橋などの建設が行われてきました。

昨年、幾春別川の切り替えが行われ、この度、旧美唄川が新水路に通り、工事着手より14年の歳月を要し、来年度事業の完了予定です。



幌達布新水路事業
地権者会会長 瀬能 富士雄氏

着工から14年、新水路の通水を迎えたことをうれしく思います。我々の地権者会は、今からおよそ20年前、地権者52戸で発足しました。当初、自分の生まれ育った家や土地を手離すことに大きな抵抗がありました。しかし、洪水で何度も辛い思いをしてきましたし、この地域全体を洪水から守るためには、立ち退きもやむを得ない事だと皆が納得しました。計画が決まった後は、地権者全員が協力してくれたおかげでスムーズにいきました。組織としての団結力が固まるのも早く良かったと思います。行政もその都度、工事計画やその内容など住民説明会を開いて、我々の声によく耳を傾けてくれました。更に思わぬ副産物として、北村の学校の統廃合が進んだことも良い事でした。

地元の方へインタビュー

幌達布新水路事業対策協議会
会長 池田 満氏



振り返りますと、様々なことが脳裏をよぎります。洪水に苦しめられた苦しい思いとともに、新水路計画の予定地となり移転を余儀なくされた北村の小学校や保育所、公民館やお寺など、地域のコミュニケーションの場を失う辛さもありました。しかし、過去の被害で幾度となく泣かされてきた我々としては、この事業は避けて通れないものでした。私は地元の声の取りまとめ役として、皆が意見を言い、知恵を出す機会を多く持つことを心掛け、地域の声を代表して行政に伝えましたが、その時の言葉の重さや辛さを忘れることができません。14年にも及ぶ工事期間中、大きな事故も無くこの日を迎えることができ良かったと思います。今後は、この地域の新しい核としての川を財産として最大限に活用していくことが大事だと考えています。

2006年・北村の雪中植林の作業風景



植樹作業も終わり、スノーモービルなどで雪遊び♪



カミネッコンに枝木を刺し、雪の中に埋めます



ダンボールでカミネッコンを作ります

【当日の裏方の仕事】
当日のスタッフ集合は朝8時30分。前日入りした「NPO法人水環境北海道」の方々との酒宴の後遺症で二日酔い気味の事務局長を中心に、会場づくり、東先生の講演準備、植林会場の除雪など大忙し!
しかし、何よりも当日は「猛吹雪...」。2月の北村は吹雪が多く、この日も大荒れ。気をもみながら、一般参加の方々にも手伝っていただき準備を進めました。そんな中、北村産のお米を利用した昼食用のおにぎりや、体の芯からあったまる豚汁は、みなさんのご協力によりドン・ドン出来るのでした。

【企画準備】
北村での雪中植林は今回で4回目を数えました。準備は事務局長の島一雄さんが中心となり、年明けから本格的に取り組みました。
みなさん、それぞれに仕事をもつての活動のため、打ち合わせは平日の夜、もしくは休日となります。カミネッコンの製作に欠かせない「濡れ新聞紙」は1週間前から地道に水に浸し、また水を足すという作業。3日前に引き上げて水切りし、いよいよ当日のためにスタンバイ! また、植林会場でチビッ子たちに大人気なのがスノーモービル体験。こちらからも、夜な夜なスノーモービルの勇者たちが思考を凝らした演出を考えました。一方、会場ではイベントの写真展示に大忙しでした。

レポート!

私たち「NPO法人山のない北村の輝き」は、石黒理事長をはじめ北村を愛するメンバーで構成されています。石狩川流域や地域を流れる旧美唄川、北村九沼に親しみながら自然を楽しんでしまおうという、和気あいあいとした活動を展開しています。今回は2月11日に行われた第4回旧美唄川雪中植林の模様を紙面を借りて報告いたします。



準備で少し疲れ気味の橋本拓がお届けします...!

雪中植林 in 北村。勤務後、約1ヶ月かけての地道な作業が成功の秘訣!

【実施状況】
いよいよ実行委員長による開会となり、地元北村長の挨拶、東先生の講話。天候も回復し、理事長のGOサインで、植林が予定どおり実施できる見通しが立ち、カミネッコンの製作に移りました。各テーブルに配置されたカミネッコンの指導者と一緒に行います。
ダンボールに濡れ新聞紙を突き刺して詰め、思い思いにマジックで絵を描き完成させます。早い人もいれば遅い人もいるので、みんな協力し合って完成させます。
植林を行う旧美唄川河川敷にバスで移動し、将来立派な森になるよう願いを込めながら植樹を行いました。その後、冬の河川観察としてスノーモービルの体験試乗。川の有効性を認識しながら冬の休日を楽しみました。

再び改善センターに戻り、「待つてました」の昼食。お手伝いのお母さんたち自慢の漬物とおにぎり、建設課職員お手製の豚汁、みんな満足顔で美味しくいただきました。
参加者のみなさんに感想や、PRを頂いた後、無事、第4回雪中植林事業を終了することが出来ました。
「NPO法人山のない北村の輝き」は、北村の自然から多くのことを学びます。雪、そして冬を逆手に取った植林事業を、今後みなさまと続けて参ります。ご参加ありがとうございました!
(NPO法人山のない北村の輝き 橋本拓)

写真(上から): 理事長の石黒武美さん、貴重な存在の女子スタッフ横山恵さんと鎌田華恵さん、「準備が大変だけど参加していただいた方の笑顔が何よりの励み」と七戸徹さん、打ち合わせをする事務局長の島一雄さん(右)と尾高哲夫さん



何度やっても、釣れません。サオに反応してから上げて、遅いので、今度はワカサギの速さに負けないように手袋を脱いで再挑戦!



▲エサは「紅さし」という、小さなピンク色の虫。二つに切って針に付けます。ところが私は虫が大の苦手! エサ付けは三浦さんに頼んでしまいました

まずは三浦さんの「技」を拝見。氷の穴に糸を入れた瞬間、サオがピクッと反応! ものすごい速さでワカサギを吊り上げていく名人のすごさに驚くばかり! お手本のあと、いよいよ私の番。桂沢湖のワカサギは小さいらしく、通常の針では合わないため1号という特注の針を使います。

ワカサギ釣りは凍った湖の上で行うので防寒対策が必要。スキーウェアの下にジャージを着て、カイロを貼って準備を整えました。私が釣り場に到着したときには、三浦さんは、すでにかなりのワカサギを釣っている様子。私も頑張るぞ!

雅美の
体験レポート
ダム探検隊
「桂沢湖」で
ワカサギ釣り

幾春別川の流域には川と関係の深い様々な施設があります。FMはまなすの「千葉雅美(ちばまさみ)」がレポーターとなり、体を張ってレポート!!
今回は三笠市の桂沢ダム(桂沢湖)で、ワカサギ釣りを体験してきました!

今回の
案・内・人

桂沢観光ホテル
ワカサギ釣り場管理人
(異名「氷の魔術師」)
みうらとしみつ
三浦俊光さん

天ぷら & ワカサギ釣りの感想

桂沢観光ホテルでは宿泊した場合、釣ったワカサギを天ぷらにしてもらえるサービスがあります。今回は特別の計らいで釣り上げたワカサギを持参して、天ぷらにしてみました。ワカサギを食べるのは初めてだったので、少しドキドキ。さっそく、揚げたてをパクリ。サクサクの歯ごたえで、あっさりとした味に大満足! 桂沢湖のワカサギにはクセがなく、三浦さんは多い日には1キロ程のワカサギを釣り上げるそうですから、それらも桂沢湖の水質が良いおかげなんだと実感しました。



やっと、かわいいワカサギが釣れました! しかし、針からははずすときがまた大変。当然釣れたばかりのワカサギは生きています。体をつかむと暴れるので、一度釣れると不思議なことに、ほとんど釣れ出し、寒さも忘れて熱中してしまいました。エサを1度取り替えてもらい、1時間で15匹ほどの成果がありました。

※今シーズンの営業は終了しています。

川とわたしの思い出

「桂沢は宝の山」

三笠の湖・川・緑を愛する会

三笠市 板垣 久



三笠市を東西に走る幾春別川の源は桂沢にあり、昔は御料林として、戦後は国有林として豊富な天然林が管理されてきました。またこの地は、中生代白亜紀の地層が広く分布し、アンモナイトを中心に多くの化石が産出するのでも有名です。

「アンモナイトの街みかさ」は人々に広く知られるようになりました。桂沢は天然林が豊富です。そのため山菜や草・山葡萄が多く採れます。ワラビは今まで見たこともないような太く長い物で、とても驚きました。フキや行者ニンニク(俗称アイヌねぎ)も豊富で、いたる所で採集できるのがうれいんです。舞茸も、香りも味も良く絶品です。以前よその夫婦が、一日でダンボール4箱分の舞茸を採ったのを見ました。一袋購入し、天然舞茸の「土瓶蒸し」にしましたが、最高の味でしたよ。松茸も採れます。私が見たものは、長

さ12センチ位の立派な物です。その他薬草も未確認ですが…。桂沢は秋の紅葉がとても素晴らしいのです。何回見ても飽きない景色です。眺望の良い「松本平」でのシンギスカンも良い思い出となりました。盤の沢の名水も自慢できる代物(しろもの)と思います。桂沢から少し離れた奔別(ほんべつ)の稜線付近は、現在も露天掘りで石炭の生産が行われ、日本一の巨大重機(自重170トン)が轟音を立てながら炭層を削る光景はまさに圧巻です。

「エーンヤアー会津磐梯山は宝の山よ」でなく、「エーンヤアー宝の山は三笠の桂沢よ」とね。注意が必要です。テレビでヒグマに釣り人が襲われる事件が生々しく放映されています。



岩見沢神社例大祭 (昭和40年代)

幾春別川流域
ふるさと祭りの

岩見沢は、今から122年前の明治17年に戸長役場が設置され、鳥取・山口県の人々が入植し、その歩みが始まりました。岩見沢の歴史のお祭りは、「岩見沢神社例大祭(いわみさわ秋まつり)」ですが、他にも開基100年を祝って始められた「ふるさと百餅祭り」や、「彩花(さいか)まつり」、若者の手作りによって始められた「ドカ雪まつり」が開催されています。

市民の心のふるさと
「岩見沢神社例大祭」
明治33年に始まったこのお祭りは、今年で93回目(戦争や水害で3回中止)を迎えます。毎年9月14日の宵祭(よいまつり)を皮切りに3日間行われ、神輿(みこし)が市内を練り歩き、神社周辺には露店が並びます。
開拓時代から歴史をつな



「いわみさわ彩花まつり」
従来の「あやめまつり」が、平成3年に、市内在住の若者たちの手づくりで始まりました。
市民雪像や大型滑り台、雪のアスレチック、人間ばねば競争などで盛り上がります。直径2メートルのジャンボ鉄鍋で作るキジ鍋も人気です。これらビックイベントのほかに「サケ稚魚放流」や「健康まつり」など、岩見沢市ではさまざまな祭りやイベントが開かれています。

いできた祭りは、市民の心のふるさととしてこれからも親しまれていくことでしょう。
世界最大級の杵と臼「ふるさと百餅(ひゃっぺい)祭り」
岩見沢開基百年(昭和58年)に始まった「ふるさと百餅祭り」は、五穀豊稔、商売繁盛、市民の長寿を祈願して行われる世界最大級の杵と臼を使ったもちつきです。
臼の大きさは直径2.4メートル、重さ4トン、杵の重さは200キログラム。一度に一俵(60キログラム)の餅をつくことができます。
樹齢300〜500年の巨

木で作られた臼は現在六代目となっています。
他にも、同時開催で「親子百うす祭り」や「ふるさと食と緑のフェスティバル」、
「いわみさわめっちゃこい市」が、敬老の日を最終日とする3日間、開かれます。
バラとあやめが咲き乱れる「いわみさわ彩花(さいか)まつり」

若者たちの手作りイベント「IWAZAWAドカ雪まつり」
平成3年に、市内在住の若者たちの手づくりで始まりました。
市民雪像や大型滑り台、雪のアスレチック、人間ばねば競争などで盛り上がります。直径2メートルのジャンボ鉄鍋で作るキジ鍋も人気です。これらビックイベントのほかに「サケ稚魚放流」や「健康まつり」など、岩見沢市ではさまざまな祭りやイベントが開かれています。



秋の桂沢

わがまちの 名人



切手収集家

北村

鎌田 保さん 75歳

2センチ角ほどの大きさの図柄に魅了され、集めたその数およそ2万種類。北村にお住まいの鎌田さんは、日本の郵便切手や記念切手、世界各国の切手をコレクションするこの道60年の名人です。

「いつ頃から切手の収集を始めたのですか。」

「戦後まもなくです。その頃まだ私は学生でした。ですから、もっとうちはなるでしようか。」

「現在まで収集した切手は何枚くらいになりますか?」

「私が所有している切手には日清戦争や日露戦争の頃の記念切手もあり、世界各国の切手も合わせると約2万種類になります。」

「切手はどのように入手されるのですか。また、その保存方法もお聞かせください。」

「切手商に頼んで買求めたり、日本郵趣会の例会時のオークションなどで手に入れます。切手というのはある種の骨董品です。相手は紙だから保存が良くないと駄目です。変色したり折れたり、のり落ちしても評価が下がってしまいます。湿度も影響を与えますが、それより何より、重ねるとくっついてしまうので保管する時はファイルを立てかけておかなければなりません。」

「幻の逸品ですと、どのくらいのお値段が付いているのでしょうか。」



大正8年 飛行郵便試行記念切手

「鎌田さんにとって切手収集の楽しみとは?」
「切手の全てを集めたい、という欲求があります。それは不可能だろうけれどそれが夢です。集めていく過程が何よりの喜びです。」

「使用済みの切手と未使用の切手は、どちらに価値があるのでしょうか。」

「それは一概には言えません。使用された切手の方が、値段が高いというところもよくあります。現存するものがない場合などです。ただし消印も午前と午後で価値が変わりますし、二七の消印もあり、鑑定が難しいんです。」

「世界の切手の魅力や特徴は何でしょうか。」

「最近では日本の切手もさまざまな形がありますが、世界の国の切手には形が三角形など実にさまざまで、色や図柄がどれも鮮やかできれいです。見ているだけで楽しくなります。昔前の共産圏の国は外貨を稼ぐために多種類の切手を発行していましたが、枚数を少なく発行して値段が上がることで外貨を稼いだのです。1年に2千種類を出す国もあります。」

水辺の風景



恵庭市 中村 勝幸さん 河川敷で行われた雪中植林に参加、親子による植林のワンショット

写真募集

あなたの好きな水辺の風景を写してみませんか。

応募内容

- プリント、デジタルデータ、ポジフィルムなど、形態は自由。あなたの「想い」など、お送りいただく写真の風景についてのコメントを原稿用紙などに100文字以内にまとめて、写真と一緒に送ってください。順番に「大好き! 幾春別川」に掲載させていただきます。
- ※1人何点でも応募可。
- ※写真の返却はいたしません。
- ※応募は随時受付
- 送付先: 下記の連絡先
「大好き! 幾春別川 水辺の風景係」まで

連載

川の記憶 幾春別川と橋 ④

新篠津と北村を結ぶ「たつぷ大橋」

(岩見沢大橋)



岩見沢大橋と渡船 (新篠津村史より)

「北新大橋」と考えられましたが、知名度の高い岩見沢を使った「岩見沢大橋」とされました。幾春別川新水路事業の実施にともない、架け換えとなる新しい橋の名前は、地域のシンボルとなることから一般に公募し、新しい橋名は、北村

「岩見沢大橋」は、道々岩見沢石狩線の石狩川に架かる橋で、昭和35年に完成しました。橋が架かる以前は、新篠津村から北村・岩見沢方面への交通は、渡船によって行われてきました。渡船は広い石狩川を横断することから非常に危険で、事故もたびたび起こり、時には命を落とすこともありました。戦後の復興と食糧増産が進み始めたころ、地元住民は、石狩と空知を結ぶこの橋の建設を国や道に強く働きかけました。この動きの中で、橋名は新篠津村と北村を結ぶこと



斜張橋の「たつぷ大橋」と「岩見沢大橋」(右)

の幌達布と新篠津村の上達布を結ぶ橋であることから、「たつぷ大橋」と命名されました。「たつぷ大橋」は、石狩川で分断されている石狩と空知を結ぶ架け橋として、地域のシンボルタワーとして地域の発展を見守ってくれるでしょう。

お便りお待ちしております!

本紙は、楽しい誌面をつくるために読者みなさまからのご意見や感想をお聞きしております。また、「〇〇についてぜひ取り上げてほしい!」という話題もお待ちしております。どしどしお寄せください。

【連絡先】
石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内
幾春別川ニュース編集委員会 事務局
〒068-0007 岩見沢市7条9丁目
※ご質問の内容は、郵送か、ファックス(0126-25-1697)にお願いします。

行事予定

■サケの稚魚放流壮行会

開催日: 4月13日
開催場所: 岩見沢市
「川西大橋下流左岸」
主催: 幾春別川をよくする市民の会

■川の日ワークショップ

開催日: 6月3、4日
開催予定場所: 鶴川町

■第14回 幾春別川カップ in三笠~カヌー競技

開催日: 6月17、18日
開催場所: 三笠市西桂沢
主催: 三笠カヌークラブ

■フラワーライン

開催予定日: 6月下旬
開催予定場所: 狩野橋左岸下流付近
主催: 幾春別川をよくする市民の会

■河川愛護月間・空き缶拾い

開催予定日: 7月8日
開催予定場所: 北村「旧美唄川北栄橋下流左岸」
主催: NPO法人山のない北村の輝き

■石狩川下覧権~川下り

開催予定日: 7月中旬
開催予定場所: 石狩川
「深川市~月形町」
主催: 石狩川下覧権実行委員会